

リパブリックイニシアティブ 広場 PT 第 5 回全体会

日時：2 月 13 日 18：00～21：00

場所：ワテラスコモン 3 階

参加者：牧村、高宮、岸本（町田市経済観光部産業観光課）、西田、岡部（NPO 法人ハマのトウダイ）、小野（株式会社プランニングオフィスキュー）、助川、寺本（株式会社伸和エージェンシー）、大和田（大和ハウス工業株式会社）、三上（大和ハウス工業株式会社）（敬称略）高地（記録）

■岸本さまより、「町田シバヒロ」の紹介

立地や運営形態、広場+屋根付きイベント空間を作るという中長期目標の紹介。中心市街地活性化を含めて、現在社会実験中。様々なターゲットを設定したオープニングイベントを行ったが、全体的に家族の参加者が多かった。現在は 7 割が日常利用、3 割がイベント利用となっている。

■質疑応答、ディスカッション

公園ではなく経済観光の部局が管理していることは特徴的であり、設備や運営、広報、商業利用の可能性について質疑応答、ディスカッション。町田駅から歩けるところに大きな公園はあるが、商業イベントができるのはシバヒロだけであり可能性が感じられる。公園条例で行えない広告掲示や、テナントを入れてのケータリング等、様々な実証実験を検討。

■広場条例の事例確認、比較検討

現在ある各地の様々な「広場条例」の内容を確認。占用に関する条文を比較すると、自由度の想像がしやすい。積極的に自由に使い倒して構わないというところと、逆にあまり使って欲しくなさそうな印象の場所がある。

利用料金規定については、公園の利用料にはそもそも運営費をカバーするという考え方はなく、土地代からの換算。維持管理コストは税金で賄っているものであり、事業性を持つという考え方はあっても良いはず。

■世田谷区、羽根木公園の事例検討

高宮より、自由で活発な広場活用の一例として、市民活動の祭典として羽根木公園で行われている「雑居まつり」の事例紹介。地域住民の下地が色濃くあり、それが行政と専門家が仕掛けていく部分と上手く組み合わせあってインパクトのあるものになった例。目玉イベントに頼りすぎるのではなく、日常の居心地の質を上げるというアプローチが必要。